

ニュージーランドにおける健康教育に関する研究
——学校歯科保健およびスクールナースの
活動から見る保健教育・保健管理の実態——

A Study of Health Education in New Zealand
——Actual Condition of Health Education and Health Management
of School Dental Therapist and School Nurse——

瀬 川 美 恵 子

Mieko SEGAWA

I は じ め に

近年、子どもたちの心とからだのさまざまな健康問題が叫ばれている。このような子どもたちの問題の解決に向けて、養護教諭は重要な役割を持つと考えられる。

今日の健康問題は、単に学校保健としての問題に留まらず、学校教育全体の問題としてとらえる必要があり、養護教諭がこれまで以上にそれぞれの学校で主体的にその専門性を生かし、その力量を十分に発揮することが望ましいと考えられる。

こうした養護教諭の役割への期待とともに、養護教諭に関わる新しい課題も多く生じてきている。具体的には、メンタルヘルスの問題への対応、教科保健の担当、保健主事としての仕事、スクールカウンセラー・学校医・地域保健担当者との連携などがあげられる。

養護教諭には「教育職員」「看護能力」「医学的知識」「カウンセリングの力量」などに関する能力が求められ、同時に、企画力・実行力・調整能力を身につけることが望まれている。¹⁾

養護教諭養成のためのカリキュラムも、今日的課題を踏まえながらそれぞれが高められるように作成されている。

これら日本の現状を踏まえ、ニュージーランドの3教育施設と、1学校歯科関係機関を視察訪問して資料を収集し、ニュージーランドでの教育と健康を関連づける情報を得た。また、スクールナースおよび学校歯科の特色や役割の実態を把握し、日本との比較検討を深め、日本における児童生徒の健やかな心とからだを育む健康教育について考察と分析をした。

なお本稿は、平成13年度北海道浅井学園大学短期大学部特別研究費の助成を受け、2001年9月9日から9月15日までの7日間の日程で、ニュージーランド北島にあるオークランド市において得た資料の翻訳を行い、歯科保健管理・健康教育プログラムおよびスクールナースの実状について考察し、明らかになったことを報告する。

訪問、視察に関してコーディネート・現地通訳だけでなく、現地案内・その後の調査・研究にも多大なご協力をいただいたMs. MARI EMERY, 学校教育方針・面接調査とディスカッション、

そして授業参観にご協力いただいたMOUNT ROSKILL GRAMMAR SCHOOLのMs. JUDY McLAREN (School Nurse), GLENDOWIG COLLEGEのMs. LOUISE MOORE (Acting Principal) とMs. B GERARD NZRGON (School Nurse), SELWIN COLLEGEのMs. WHITE (Principal) とMs. G. HALCOLM-SMITH (School Nurse) そしてMs. TRUDY HOSSACK (Dental Therapist) の方がた、また、多くの資料の翻訳をしてくださった神谷英夫氏に、心から感謝申し上げます。

II 研究方法

1. 面接調査とディスカッション
2. 授業参観
3. 資料収集と分析

III ニュージーランドの概要

1. 医療システム

(1) 病院は公立と私立とがあり、私立は公立よりも医療費が高い。公立の病院は、費用が安い、都市部でも数が少ないこともあり、常に混雑している。

● 総合病院

1998年現在で109の公立病院と278の私立病院がある。総合病院は、緊急時または手術・入院が必要な時に行くのが、一般的である。日本のように風邪などで大病院を訪れることはない。

● 一般開業医

まずジェネラル・プラクティショナー (General Practitioner, 一般にGPと呼ばれる一般開業医) が、内科・小児科・産婦人科など医療全般を診療する。風邪や負傷などの場合は、GPで処方箋をもらい、薬局で薬を購入する。²⁾

GPはファミリードクターとも呼ばれ、各家庭がかかりつけのGPを決めている事が多い。GPは、家族の健康管理をしてくれる医者でもある。

また、24時間体制で休日も診療を行っているEmergency Clinicもある。

● 専門医 (Specialist)

診療が複雑になる場合や、婦人科・耳鼻科系の病気などの専門分野、または特定の病気の場合は、GPが専門医を紹介してくれる。自分で専門医を指定し、GPに紹介状を書いてもらうこともできる。専門分野の医師に診てもらう場合には、必ず紹介状が必要となる。

専門医にも私立と公立とがあり、私立の専門医は比較的早く予約が取れるが、医療費を個人で負担しなくてはならない。一方、公立の場合は予約から診療まで長く待つことが多いが、医療費はほとんどが無料である。

図 1



● 入院

入院が必要な場合は、公立か私立かのどちらかの病院を選ぶことができる。公立病院の場合は、高齢者の長期入院の一部を除いて入院費も無料だが、私立病院の場合は、自己負担となる。しかし、公立病院では原則として入院の順番を待たなくてはならないため、その間に容態が急変して、大事に至るというケースも多数起きている。

(2) ACCとは

ACC (Accident Compensation Corporation) という政府機関が、ニュージーランド (以下NZ) 国内で起きた事故に対して、治療費などを負担する事故補償制度のことである。ACC制度が適用されると、治療費のほか、緊急時の救急車などの交通費や宿泊施設を利用した場合の宿泊費なども支給される。

(3) 薬の購入

NZで薬を買う時は、通常ケミスト (Chemist) に行く。風邪薬や咳止め・鎮痛解熱剤・胃腸薬や血圧の薬・強い鎮静剤などは医師による処方箋をケミストに提出し、購入する。ケミストは、日本の薬局やドラッグストアと同じような店のことで、化粧品も販売している。

(4) 保健管理担当者

医師・実地看護婦・保健婦・栄養士・聴力検査技師・歯科看護婦・小児科医・助産婦が、子どもたちの検査に関わっている。

①医師 (一般, 家庭医) …子どもの諸検査・家庭訪問・全体の妊娠ケア・アドバイス・サポートを提供する。

②看護婦 (実地看護婦, 保健婦) …家庭訪問・グループ会議・子どもの検査・アドバイス・サポートを提供する。

③視力・聴力検査技師…幼稚園児と児童の視力と聴力の検査を実施する。

* 日本の健康診断で実施される視力検査は、ランドルト環を使用し、健康診断の項目として法的に決められており、各学校で全学年に実施している。

しかし、NZの視力表で使われる文字は、ローマ字やアラビア数字が一般的であり、子どもの視力検査には絵を使うこともある。NZで視力を測る場合、分数表示となり、日本の1.0が6/6, 0.5が6/12という言い方となる。

眼鏡やコンタクトレンズを作る時は、屈折計測専門家 (Optometrist, レンズ・フレームに関するスペシャリストであり、大学に専門コースがある) のところに行くのが一般的である。

④歯科看護婦…子どもの歯の検査とアドバイスを提供する。

⑤薬剤師…薬剤の提供とアドバイスを提供する。

⑥助産婦…家庭訪問, 妊娠中・出産・出産後の妊婦のケアを提供する。

⑦コミュニティワーカー, ホームビジター…しばしば家庭訪問・グループ会議・サポート・

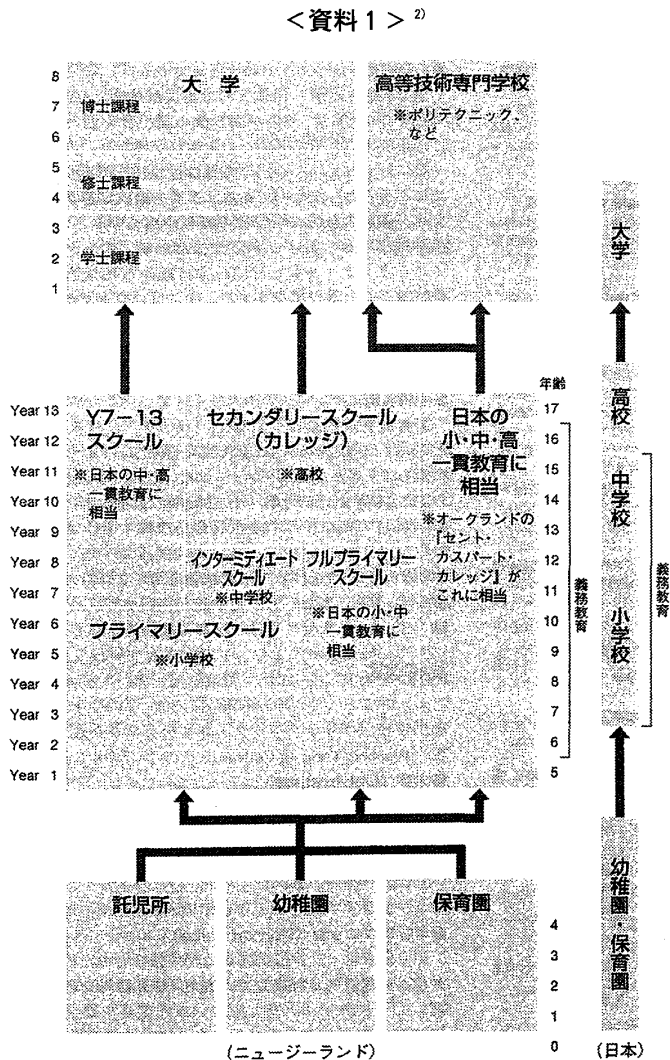
アドバイスを提供する。

2. NZの教育とその特色

(1) 教育制度とその特色

1996年からは4学期制を採用している。³⁾ その理由は、子どもの疲労が少なくすむ・短い学期の方が子どもたちの集中力を増し能率が上がる・長期の休日が頻繁にとれるなどからである。1学期は1月下旬から4月中旬、2学期は4月下旬から7月上旬、3学期は7月中旬から9月下旬、そして4学期は10月中旬から12月初旬ないし中旬までである。学校や地域の独自の休日があるために、授業日数が確保できるように、12月の授業終了日は学校の裁量に任されている。南半球は12月から1月にかけて夏となるので、学年が変わる休みは夏休みとなり、最も長期の休みとなる。各学期は約10週、学期間の休みは約2週間となる。

<資料1>より NZの学校系統図を見ると、



● 幼児教育

0歳から5歳までの乳幼児を受け入れる託児所や保育園 (Childcare Centre), 3歳から5歳までの幼児を対象とする幼稚園 (Kindergarten) は, Pre School Classと呼ばれる就学前幼児学級であり, 保護者によって運営されるPlay Ceantreと呼ばれる施設などが, 主な幼児教育機関である。どの施設も小学校就学前のPre School Classを設けている。ここでは, 幼稚園の年長クラスの子どもたちが, 読み書き・数学・躰など小学入学に向けての準備を行なう。

● 初等教育

小学校は5歳から10歳までの子どもが対象で, 5年間である。小学校入学資格は, 子どもが満5歳の誕生日を迎えたその日から与えられる。そのため入学日が異なり, 入学式は

一般に行われていない。卒業式は行われるが, 高校以外は小規模である。クラス編成は各学校で異なり, 編成のしかたに各学校の特色が出ているといえる。小学校卒業, 日本の中学校にあたる「インターディエートスクール」と呼ばれる11歳から13歳までの生徒たちを

対象とした学校に進学する。中には「プライマリースクール」と呼ばれる小中一貫教育の学校もある。必須科目は国語（英語）・算数・科学・音楽・美術・体育などである。

● 中等教育

初等教育課程を終了すると、「セカンダリースクール」と呼ばれる日本の中学と高校を一体化したような学校に進む。「セカンダリースクール」は5年間で、13歳から17・18歳までが対象である。小・中学校と同様で4学期制である。必須科目の他に多くの選択科目を履修する。選択科目の中には日本語を採用している学校も少なくない。在学中（Year11～Year13）に卒業試験を含む2つの大きな試験を受ける。また、大学進学希望者は、大学入学資格試験（Bursary）を受けなければならない。

なお、授業の時間帯は、初等教育が午前9時～午後3時で中等教育は30分終了時間が遅い。出欠については6～16歳は法律に従って入学し、定期的に出席しなければならない。

● 高等教育

高等教育には、大学・高等技術専門学校（ポリテクニク、ユニテクニク）・師範学校（Teachers Training College）・ワナガンの4つがある。

- * 公立の小・中・高等学校は政府が管理しており、基本的に授業料は無料だが、運営は学校の独立採算制で、寄付金などは学校によって異なる。NZの初等・中等教育で忘れてならないのは、保護者や地域の援助である。

NZの1998年の国家予算において教育費の占める割合は17%である。教育費の割合は増加傾向にあり、世界的にみても低いとはいえない。

しかし、教育費の多くは人件費や建設費となり、学校の設備を十分潤すまでとはいっていない。学校においては、賃金、労働力、そして善意が寄付され、運営され続けていくと考えられる。

(2) 学習指導要領にみる健康教育

NZの保健体育のカリキュラムは、健康教育・体育・家庭科の観点を統合した健康志向のカリキュラムである。

①保健体育科学習指導要領の全体像（Ministry, 1999, 6）

I 四つの学習目標領域

- ・個人の健康と身体の発達
- ・他人との関係
- ・運動概念と運動技能
- ・健康なコミュニティと環境

II 四つの基本コンセプト

- ・安寧
- ・社会的、エコロジカルな視点
- ・ヘルスプロモーション
- ・態度と価値観

III 七つの学習領域

- ・メンタルヘルス
- ・性教育
- ・食物と栄養
- ・身体への配慮と安全確保
- ・身体活動
- ・スポーツ研究
- ・野外教育

②NZの学習指導要領の学習目標構造⁴⁾ (Ministry, 1999, 8-9)

<資料2>

| 学習目標領域 | A 個人の健康と身体の発達 | B 運動コンセプトと運動技能 | C 他人との関係 | D 健康なコミュニティと環境 |
|-----------|---|---|---|--|
| 各段階での達成目標 | A1 個人の成長と発達 A2 定期的な身体活動 A3 安全と危機管理 A4 自己のアイデンティティと成長 | B1 運動技能 B2 肯定的な態度と挑戦課題 B3 科学とテクノロジー B4 社会的、文化的要因 | C1 関係 C2 アイデンティティ、感受性並びに尊敬 C3 インターパーソナル | D1 社会的態度と信念 D2 コミュニティの信念 D3 権利責任並びに法律 D4 人と環境 |

③NZの学習指導要領にみる健康教育の特徴

- 健康の実現には知識・技能の習得が不可欠とされている。
- いわゆる数量化で測定する体力値のみだけではなく、自己のイメージといった主観的な要因を健康観に組み込んでいる。
- 知識や技能獲得の必要性を実感できるようにするための経験保証が意識されている。いわゆる体験型の学習展開の道が開かれている。
- 一定の安全策を前提としながらも、危険への対処や挑戦課題への取り組みが求められている。
- 個人の身体的な要因のみならず、信念や態度、さらには、社会的な要因をも含めた広範な要因が、健康を規定していることを理解させることを意図している。
- 獲得した知識、技能を活用しながら、生活改善に向けて行動していく責任感向上を求めている。
- 獲得した知識を健康実現に向けて活用していくことを求めている。
- スポーツのパフォーマンス向上に必要な体力といった発想ではなく、日常生活全般をいかに健康的なものになし得るかという観点から、教科の内容領域を設定している。例えば、メンタルヘルスにおける薬物乱用に関わる意志決定に必要な知識、技能の習得を目指すといった指摘が見られる。また、自らの実践を省察しながら獲得した知識を活用していくことを求める立場も鮮明に出ている。
- 健全に生活していくために必要な栄養と食事という観点から、8年生修了までに調理実習の実践が求められている。

IV NZにおける歯科医療と歯科教育の現状

9月11日 WAITAKERE HOSPITALの中にあるEmergency DentistのDental TherapistであるTRUDY HOSSACKさんと面談した。

1. 歯科医療の歴史と現状

(1) 口腔衛生の状況は、以前は抜歯することを推進していたようであるが、現在ではできるだけ抜歯しないよう変化している。1970年代中頃には、全人口の約50%の人たちが50歳で全ての歯を失っていた。さらに、多くの人たちが、24歳までに全部の歯を抜歯していたそうである。幸いにも歯科医としての専門的な立場からの情報提供や、抜歯や歯の喪失に対する危険性などを指導することにより、歯の大切さについて「Teeth for Life (歯は一生)」という知識を与えた。その結果、現在ではほとんどの人が、自分の歯を保持することに努力している。現状では、歯科管理・教育について、かなり高い基準で口腔衛生の知識がいきわたり、歯が保たれている。

写真1



(2) むし歯予防治療

日本は、全児童生徒を対象に口腔の健康診断が学校で実施されており、その結果、定期的な歯科受診・むし歯の治療・歯石除去など、歯のチェックをする人が増えている。

NZでは、歯科健康診断は学校で実施されず自己管理となる。むし歯になってから歯科看護婦・歯科医に行くというより、予防治療するために行くという意識が強く、子どもの頃から半年～1年に1度、定期検診を受けている人が多く、歯石除去や歯の磨き方の指導などが行われている。

(3) 歯科矯正

NZでは、歯並びは容姿の大切なポイントと考えられており、歯科矯正も一般的に行われ予防治療の1つと考えられている。

2. NZにおける歯科看護婦、歯科衛生士の教育と仕事内容および日本との比較

(1) 歯科看護婦 (School Dental Therapist)

①歯科看護婦は、NZの公衆において、口腔衛生サービスの一部として、他の歯科スタッフや医療関係者と一緒に基礎的な衛生管理を行う人たちで、学校の職員である。

子どもと同時に保護者に対しても、時々ブラッシング指導などの口腔管理のしかたをアドバイスする。呼称は、学校歯科看護婦、公衆歯科看護婦である。

学校歯科サービスは、小・中学生と幼児のために高い水準の基礎管理と歯科教育を進めている。*日本にはない資格、職種である。

②歯科看護婦の仕事内容と勤務場所 (ワイテマ保健局)⁵⁾

(a) 仕事内容は、・口腔検査と治療計画の準備・歯科疾患と変形や損傷した歯の治療と乳歯の抜歯・ブラッシング指導と疾患予防のアドバイス・公衆に対する口腔衛生の助長・カルテの管理・備品と材料のオーダー・生後から18歳までの登録・就学前と就学児に歯の無料対応処置・歯科相談・コンサルタントと判断・歯科衛生教育・歯の清掃フィッシャーシーラント (溝埋め)・充填・局部麻酔・レントゲン・フッ化物処置である。

(b) 専門技術を必要とし、子どもの歯科問題を分析する技術を習得するべきである。特に、問題解決と決定する能力また、子どもや両親に対して、親切で分かりやすい会話

や説明ができることが大切である。

(c) 常に新しいテクノロジーと情報のデータを持つために、セミナーを受講することが必要である。

(d) 勤務場所は、衛生的で整備された小・中学校にある歯科診療所に勤務する。他にも、移動歯科治療ユニットでも勤務することもある。

(2) 歯科衛生士 (Dental Hygienist)

① 歯科衛生士は、歯牙と歯周疾患について予防し、治療する人であり、1995年に初のNZの歯科衛生士が誕生した。NZでは、新しい職種である。

② 仕事内容は、日本とほとんど変わらないが、レントゲン撮影や麻酔ができる。歯科医の下で働くだけでなく、歯科衛生士が直接患者を受け持つことができる。そのため、患者とはかなりの親密さで接することができるのが、日本との大きな違いである。

③ 資格は、NZ・日本とも歯科衛生士学科卒業時に、国家試験を受検、免許授与となる。

(3) NZにおける歯科健康管理及び保健指導⁶⁾

<資料3> 就学前用登録と治療

学校歯科サービスは、18歳まで無料で歯科治療、教育を受けることができる。そのためには、保護者は6ヵ月から1歳の間近く学校歯科診療所に登録する必要がある。登録用紙は<資料3>のとおりである。

オークランド地域歯科サービス

「微笑を一生」を保証するために、次のことを奨励・促進するのが大事である。

・2～13歳未満の治療

基本的に無料で、歯科看護婦が学校で治療を行う。主な治療は、乳歯と永久歯のレジン充填を中心に実施する。一般的なむし歯治療も行う。定期検診に関しても、子どもの時は、個人経営の歯科医に行くと大人同様の治療費がかかるので、まず歯科看護婦を訪れる人が多く見られる。

歯科矯正に関しては両親の知識も豊富で、費用も日本よりは安く約20～30万円程度である。両親は子どもの5歳頃に、歯科医に相談に行くことも珍しくない。

<資料3>

オークランド地域歯科医療一登録用紙 (学校のデンタルクリニック用)⁶⁾

楷書の大き文字を黒か青字で一枠に一文字ずつ書いてください

姓

名

誕生日
日 月 年 男 女

住所

オークランド地域内で昨年中に転校した場合は、前の学校名を記入

電話番号
自宅

勤務先

医師氏名

電話番号

健康状態や服用薬が歯科治療に影響することがあるので以下の事柄にお答えください。現在又は過去に下記の疾病等に罹ったことがありますか

| | はい | いいえ | はい | いいえ |
|-----------|-----------------------|-----------------------|--------|-----------------------|
| リュウマチ熱 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | 喘息 | <input type="radio"/> |
| 心臓疾患 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | 癲癇 | <input type="radio"/> |
| 血液の疾患 | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | 糖尿病 | <input type="radio"/> |
| アレルギー(ゴム) | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | HIV/肝炎 | <input type="radio"/> |

学校歯科看護婦宛にコメントを書いてください

私は子供をオークランド地域歯科医療に登録し、子供が歯科の定期検診を受けることに同意します。

私は子供をオークランド地域歯科医療に登録しません。

署名
親/保護者

日付
日 月 年

ご記入の上、学校の事務かデンタルクリニックに提出してください

・13～18歳未満

中・高校または専門学校の18歳未満の生徒・学生に対しては国と歯科医との契約で国からの支給があり、無料で治療を受けることができる。一般的には基本的な治療のみで、矯正と抜歯には適用されない。ただし、むし歯による抜歯は例外である。

親と保護者へのお知らせ⁷⁾ (Ministry of Healthの広報) <資料4>

| |
|----------------------------------|
| 毎日の歯みがき |
| 食物に気をつける (甘い飲食物は食事時に) |
| デンタルケアへの登録は早めに |
| 定期的に検査・検診を受ける |
| 水道にフッ化物が添加されていないところでは、フッ化物の錠剤を飲む |

V NZにおけるスクールナースと日本の養護教諭の比較

1. NZにおけるスクールナースの資格、身分と仕事内容

(1) NZには看護婦(士)と登録看護婦(保健婦)がある。日本のように養護教諭という職種はなく、スクールナース(以下SN)は病院や地域で働くナースと同等の資格と技量を持った正規の看護婦が、学校に勤務しているもので、看護大学(学士号)を卒業していなければならない。また、救急処置と人工心肺蘇生の資格が必要である。看護婦の免許を持たないSNは存在しない。学校勤務のSNの身分は、教職員の一人としての位置付けがなされている。勤務時間は、一般教師として、午前8時30分～午後3時30分である。資格条件として、NZ看護協会に登録していなければならない。主に一人で勤務するが、他の看護婦や医療従事者との接触も多い。地域社会グループ、学校社会と関係機関と定期的に連携を深める。そして、1年毎にセミナーなどに参加して、最新の実習証明書の提出が必要である。

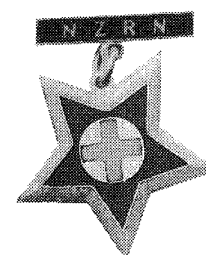
*登録〔正〕看護婦〔Registered Nurse (R.N.)〕とは、一定の看護教育課程を卒業、国の免許試験に合格し、当局より免許を与えられ登録されている有資格看護婦である。自分の名にR.N.を付加する権利を法的に与えられている。職務内容は、日本の養護教諭と類似している。⁸⁾

(2) R.N.の基本的な技術としては、コミュニケーション・看護の知識・技術・計画と構成力があり、インタビューと状況判断、そして計画管理ができなければならない。看護婦としての知識、特に身体の機能・病気・薬・治療について知って

<資料5>

看護婦バッジ(RN)の由来・1901年NZが世界ではじめて登録制度を作った。・1902年1月から政令で認められ、3年以上トレーニングを受け国家試験合格者がナースとなった。NZの看護婦の資格は、日本を除き、世界の多くの国で通用する。

写真2



いると同時に、最新の法律・健康システムについて情報を集め、公的なシステムについても常に認識していることが重要である。

(3) 経験と仕事場所

病院、地方看護婦、健康促進または他の医療業務に従事している経験があることが望ましい。教師などの資格も有利である。勤務場所は、幼稚園・学校・マラユ（マオリの住居）などである。

(4) 仕事内容

- ・学校での健康評価の提供
- ・個人の家庭と公衆
- ・疾病予防のための情報と教育の提供
- ・健康問題を促進することと、健康へのキャンペーン
- ・学校と公衆衛生の問題と関係のチェックおよび、衛生事情についてのアドバイス
- ・学校での予防接種
- ・環境問題と危険についての検査などである。

VI スクールナース訪問記

今回訪問した3校共、常勤のSNがおり、1校1名の配置である。

1. Mount Roskill Grammar School（9月12日）訪問

(1)健康方策 1990年10月1日改正

<資料6>

理事会は(a)生徒に安全で心身共に整った環境を提供すること、(b)現在施行されている生徒と職員の安全を確保するのに作られる法律に従うことを求められている。

ケアの職務

SNは、就業時間内は在校し、その業務内容には以下のことが含まれる。

SNの役割は全体を通して医学的であるべきで、これは生徒・職員の健康な生活に関わることを意味する。予防医学は、本来のヘルスケアの不可欠な部分になりつつあり、SNは医学のこの領域で貴重な役割を持つ。

①学校中で高い水準の安全を促し維持するために、以下のことが必要である。

ア. 生徒と職員の健康について教育と促進を図る。これは保健カリキュラムの中で、健康に関する範囲を支えることで達成される。

イ. 健康教育での援助についての教師の有効性。

ウ. 教室と運動の両方に対する救急用品の管理をする。

②事故と緊急処置に備えて、必要ならば適当な救急病院を直ちに紹介する。

③具合の悪い生徒に責任を持つ。これは、生徒が帰宅できるよう保護者に連絡がつくまでの、または、教室へ戻れるように回復するまでの、基本的な看護を含んでいる。

④生徒や職員が病気の時、医学的な処置を求めることの是非を決める責任を持つ。

⑤生徒・親が求める薬の服用について、処方どおりに投与することに責任がある。

- ⑥通学生が求める処置に関して、地域看護婦に連絡をとる。これは、傷病の手当・注射・投薬に係る。
- ⑦耳と眼の問題について継続管理を求める生徒について、保健婦と連絡をとる。
- ⑧生徒のためになる視力検査とBCG接種に関して、厚生省と連絡をとる。
- ⑨学校に関係あると思われる病気に関しては、保護者そして一般開業医（GP）と連絡をとる。
- ⑩常勤のSNが不在の場合、代替の看護婦を採用するよう、看護局（Bureau of Nursing）と連絡をとる。
- ⑪実地看護婦の分野を越える問題に対して、生徒がカウンセリングを必要とする場合、ガイダンスカウンセラー・学生部長そして学年主任に連絡する。
- ⑫個人が適当な職員からのさらなる援助を求めるのでなければ、学生・職員のメンバーが討議した事柄について機密を保つ。
- ⑬ヘルスセンターは、生徒への対応について、清潔・整頓・有効性を促すという規範を守らせる。
- ⑭学校共同体の中で、健康を認識させる新しい方法を考え計画し、促進することによって、登録看護婦が得た技術の活用を促す。
- ⑮時間が許す限り、他の職務を可能とする。（専門技術向上のため、病院での研修など）

(2) 健康と安全

理事会は、2,000人以上の通学生徒と160人の職員に、健康と安全の教育をする環境を提供する責任を真剣に考えている。「健康と安全」は範囲が広い。関連法規の要求を充たすと同時に、学校は生徒にできる限りの勉学環境を提供することを目指している。⁹⁾ それによって、保護を追加する効果を引き出すことを目指している。そのいくつかを下記に述べる。

目的

健康と安全について、以下のそれぞれに全体的な責任を持つこと

- ・建物とグラウンドを清潔で危険のない環境に保つ
- ・教室、特に図書館・作業場での安全を維持する
- ・適切な避難方法を広く公表し、定期的に訓練する
- ・訓練を受けたSNが、午前8時から午後4時まで適切に設置された健康センターで勤務する
- ・具合が悪いか、負傷した生徒や、SNの専門知識を必要とする生徒は、その手当てを容易に受けられるようにする
- ・事故は全てSNに報告するものとし、以後はSNが管理する
- ・SNは、記録を管理し、保護者と適切に連絡をとる
- ・校内売店の菓子類は、体に良い物とする
- ・許可のない人物（子ども・大人）が学校の敷地内にいる場合、問いただした上、シニアスタッフ（上司）に連絡する
- ・適当な職員（例えば監督者やスタッフ）は、勤務が終了し離校する場合、万遍なく校内外を巡視する。
- ・健康教育要項は、理事会が認めたうえ、指定された教員が教えるものとする。

(3) 「性教育」授業参観

NZの教育は子どもの尊厳・権利・個性を保障しようとしており、それが具現化した授業といえる。ただし、人に迷惑をかける行為については、教師は厳しく指導している。

NZは、国内における多民族との共存、そして経済を活性化させるための国内外との接合という課題を抱えているが、ナショナルカリキュラムにもその影響が及んでいる。宗教・民族の関係上「性に関する授業」は受けられない児童生徒がおり、本人および両親が申し出るにより、欠席が認められている。

「性教育の授業」

- ・ 9・10年生が「保健」を履修する。
- ・ 今回参観の授業は、9年生の1クラス（男15名、女16名）である。
- ・ Contraception（避妊）について、SNが授業、担任とT・T方式で進められた。
- ・ 内容は、避妊の説明・コンドームの種類と使用方法など、性に関するパネルを利用、黒板を使用し具体的に進められた。

授業風景 Judy McLarenさん(SN) 写真3

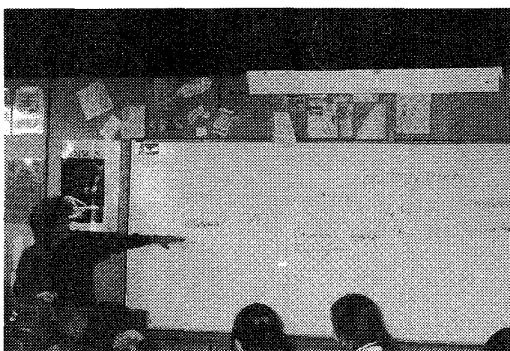


写真4 授業時使用資料の1部

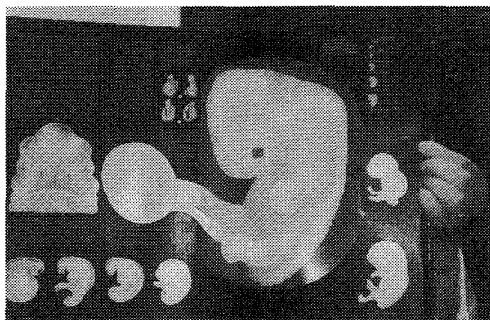


写真5 ヘルスセンターにて Gerard Nzrgonさん (SN)

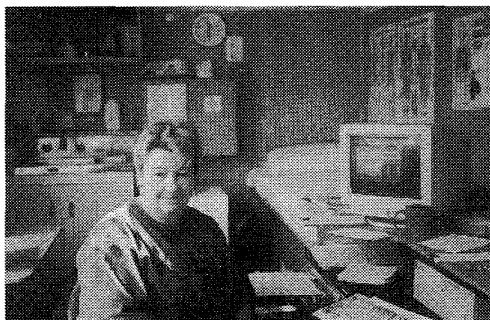


写真6 休養室



2. GLENDOWIE COLLEGE (9月13日) 訪問

(1) NZにおける「保健室」の名称と設置状況

- ・ Health Centre, Medical Room, Sick Bay (病気の施薬所)
- ・ ヘルスセンターは、執務室 (パソコン・各資料・薬品類戸等) と来室者室 (ベット4台・トイレ・シャワー室・洗面所など) とに区分されている。

(2) 来室者の状況と対応

(全校生徒数850名, 男女共学, 制服である)

- ・ 来室者数 1日平均45名, 男・女共50%, 腹痛・頭痛, けがが多い。
- ・ 薬を服用させる場合, 必ず保護者に確認をとる。

生徒が薬を服用した場合、本人は記録ノートにサインし、その後は本人の責任となる。ただし、特殊の薬が必要な生徒（アレルギー、ADHD）については、家庭から預かった医薬品を1日1回ランチタイムに服用させる。

- 付き添い生徒は教室に戻し、本人にのみ対応、処置をする。
- 負傷については必要に応じて保護者の承諾を得、病院で受診させる。その後、受診結果を必ず用紙（3枚複写）に記入し、SNに提出することになっている。
- NZは、14歳以上から1人で家にいることが認められており、14歳以下は保護者の承諾が必要である。早退時は、必ず保護者に連絡する。ただし、保護者が不在時の生徒への対応については、教頭・秘書・SNが相談をし、帰宅の是非について確認、決定する。
- SNの仕事は、負傷、身体的疾患であり、「心の問題」はすべてカウンセラーの対応となる。専門性を重視して仕事が進められている。
- カウンセリング室は、健康センター室の隣にあり、2名のカウンセラーが常勤し対応している。

例えば、カウンセラーから妊娠の生徒について、SNに連絡があった場合、直ちに対応する。NZには22歳以下の子どもに対して、ファミリー・プランニング・アソシエーション（FPA）があり、「性の健康に関する相談」「感染症の治療」「避妊」などのサービスを行っており、生徒を紹介することがある。

- 今、NZで大きな問題になっていることは、「虐待」や「家庭内暴力」である。けがをさせるいじめについては、校長・教頭に連絡し、スタッフと話し合いを持つ。児童生徒に状況を聞き、身体の負傷の状態を把握して応急処置をし、保健婦・医師に送ることが多い。

薬品名ARNICA（水溶液、錠剤、軟膏）

<資料7>

- この薬は、打撲などでできた痣に効用があり、homoeopathy（同毒療法）で症状を起こす物質を薄めて投与すると効果が増すので、NZでは一般家庭で使用されており、Health Centreにも設置されている。
- 使用方法は、5滴を1日4回使用可能、食前15分または指示によって服用できる。ひどいケース（痣）の場合は、1日6回15～30分毎の服用が可能である。
- 喘息の児童生徒には、使用不可である。効用は、水溶液を飲ませた後、患部を冷湿布するとその症状は消える。
- 「虐待」が問題になっている中、家庭で薬を使用することによって青アザが消え、早期発見がしずらいとのことであり、今後取り組みの強化が望まれている。

(3) グレンドウィーカレチ 生徒健康情報

氏名 _____ 誕生日 _____

お子さんの健康管理およびケアのために、以下の質問に教えてください。

この情報は厳重に管理し（1993年プライバシー条令）、お子さんの疾病などを確認するためだけの、資料とします。

- | | | | |
|------------|-------|--------------------------|-------|
| 1. 家庭医 | _____ | 歯科医 | _____ |
| 2. 健康状態 | _____ | 投薬（必要な薬） | _____ |
| 喘息 | はい | 鼻出血 | はい |
| 糖尿病 | はい | 再発性腹痛 | はい |
| てんかん | はい | 背中、首の痛み | はい |
| リウマチ熱 | はい | 既往症または | _____ |
| 肝炎A, BまたはC | はい | 受けた手術 | はい |
| HIV | はい | 喘息患者のみ | _____ |
| 腎臓疾患 | はい | 軽くなった人 | 予防薬 |
| 偏頭痛 | はい | | |
| 心臓疾患 | はい | | |
| 結核 | はい | | |
| 3. アレルギー | はい | 副作用の詳細（詳述、微候、緩やか／普通／激しい） | _____ |
| 蜂／じが蜂 | はい | 薬 | はい |
| 食物 | はい | その他 | はい |
4. 薬物治療：通常的に使うか、蜂刺されや、偏頭痛用に使う抗ヒスタミンのような緊急薬として必要であれば、ラベルを貼った投薬物をスクールナースに送ってください。
5. お子さんは、A型肝炎の主薬を通常服用していますか。
- a) 上記の薬以外は _____
- b) 処置／カウンセリングの経過は？ 詳細を書いてください。
-
6. 幼年期の病気：以下の病気がありましたか。（○印をつける）
風疹（イギリス風疹）、水痘、流行性耳下腺炎、何れもない
7. 免疫：お子さんには、次の免疫がありますか。（○印で）
MMR（麻疹／流行性耳下腺炎／風疹）、結核（BCG）、破傷風（日付）、肝炎
8. 感覚喪失：お子さんは、眼鏡または、補聴器を使用していますか。詳しく書いてください。
-
- この理由で、教室では前列に座る。
9. 他の関連事項：学校での活動でお子さんの妨げになることは？
10. 特別な家庭環境：学生の行動や感情の安定に影響する要因がありますか。

3. SELWYN COLLEGE（9月14日）訪問

(1) 学校紹介

①生徒数950人、60か国の生徒（日本人7名）が在籍、1クラス20～30名（難民コース2クラス）担任制ではなく教科制、保育所があり、教職員は100名以上である。¹⁰⁾ コミュニティセンターが併置されている。中学校・カレッジ・コミュニティセンターなどで、地域住民を対象にさまざまな学習コースを開設しているのが、コミュニティ・エデュケーションである。開設されている「健康と福祉コース」をみると、アロマセラピー・救急処置・人命救助・ヨガ・リラクゼーションと瞑想・マッサージ入門などがある。¹¹⁾

②JUNIOR SCHOOL 9年・10年コースと科目

(a) 次の科目の分野である。・国語（英語）・語学・数学・科学・社会科学・技術・芸術・保健体育である。これは、国の定めるカリキュラムの枠内にある。

(b) 保健体育教育の「保健コースの目的」としては、自分の健康と他人の幸せについて正確に判断できるような知識・技量・態度を養うことである。

③生徒援助組織図

ヘルスセンター；Ms. G. Malcolm Smith（登録看護婦）が運営し毎日午前8時30分から午後3時30分まで開かれている。最近センターは近代化し、医師のカウンセリングルーム、休息室、シャワーとトイレットが設置されている。

最初に、保護者と連絡がとれなければ、生徒を帰宅させない。軽い健康上の問題は、ただちにSNが処置し、重症の疾病や負傷は、保護者に連絡がつかなければ、医師または病院が関わる。

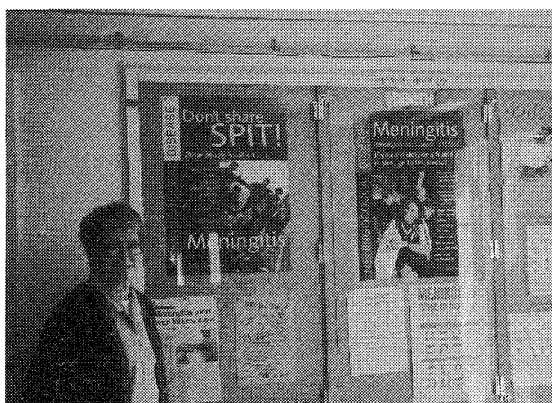


写真7 Malcolm Smithさん（SN）
ヘルスセンターにて

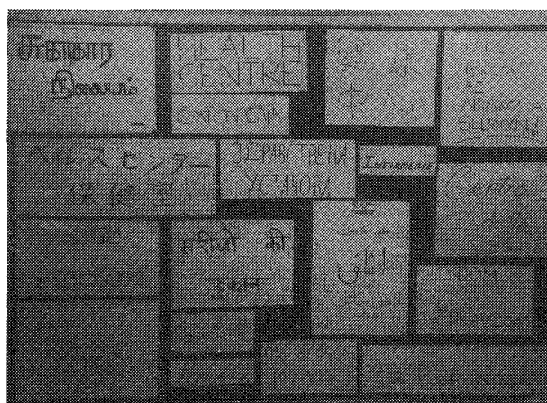


写真8 掲示物～各国の保健室の名称～

カウンセラーは、生徒とその保護者に関わるあらゆることに個人を基礎にして、カウンセリングを行う。カウンセラーは、Dr. LewisとMs. Cheshireである。

Ⅶ お わ り に

日本とニュージーランドでは、学校における児童生徒の保健管理・健康教育についての考え方や対応のしかたに、歴史的に異なる経過をたどって今日に至っている。

日本の養護教諭は、看護的基礎の上に教育活動を行う点が、看護面の専門性を重点とするニュージーランドのスクールナースとは異なった点であり、独自性がある。

社会の変化に伴って健康問題は多様化し、現代の生活環境は児童生徒の精神的負担を大きくしている側面があり、養護教諭の職務の範囲も拡大している。

保健体育審議会答申に「養護教諭の新たな役割」が盛り込まれるなど¹²⁾ 養護教諭の活動について改めて考察する機会が高まっている。今や養護教諭は、法的にもバックアップされ、社会の理解や協力が得られやすい環境も整い、養護教諭の役割の重要性がこれまで以上に認識されてきた。それだけに、養護教諭としての専門的機能を発揮しながら、独自の教育機能を十分に発展させていく方法を一層追求するとともに、家庭や地域社会との連携を密にしながら、継続・発展させていくことが必要である。

今後、学校全体に目を向け広い視野に立った保健活動・組織活動の有効な活用・学校運営組織の中への学校保健活動の位置づけ・積極的な保健教育の促進・総合的な学習の時間の健康教育活用などが求められる。

そのためには、子どもの健康問題の解決に向けて、養護教諭の充実した研修を深めることが今まで以上に重要であり必要不可欠と考えられる。

参 考 文 献

- 1) 三木とみ子：養護概説，養護教諭に必要な能力，2000，(株)ぎょうせい，pp28-29
- 2) THAT'S NZ：ニュージーランドの暮らし方，2001-2002，(株)ケーブル・アンド・ワイヤレス IDC，p 157，pp178-182
- 3) 石附実・笹森健：オーストラリア・ニュージーランドの教育，2001，東信堂，p 133
- 4) 岡出美則：これからの教科「保健」を考える，第48回日本学校保健学会，2001v.43，No.5，pp46-47
- 5) Waitemata HEALTH：Auckland Regional Dental Service，1999，p2
- 6) Waitemata HEALTH：Auckland Regional Dental Service—Enrolment Form，1994，pp2-3
- 7) Ministry of Health Health Education Resources Dental Health June，2000，p 7
- 8) 渡辺良孝：MEDICAL DICTIONRY ナース版，医学書院，2000，p 799
- 9) 厚生労働省：健康で安全な生活の確保，2001，p 180
- 10) SELWYN COMMUNITY Prospectus，2002，p 4
- 11) SELWYN COMMUNITY EDUCATION June to November，2001，p 39
- 12) 保健体育審議会：生涯にわたる心身の健康の保持増進のための今後の健康に関する教育及びスポーツの振興の在り方について，学校保健マニュアル第5版，南山堂，2001，p 151